

石川県立大聖寺高等学校

同窓会会報

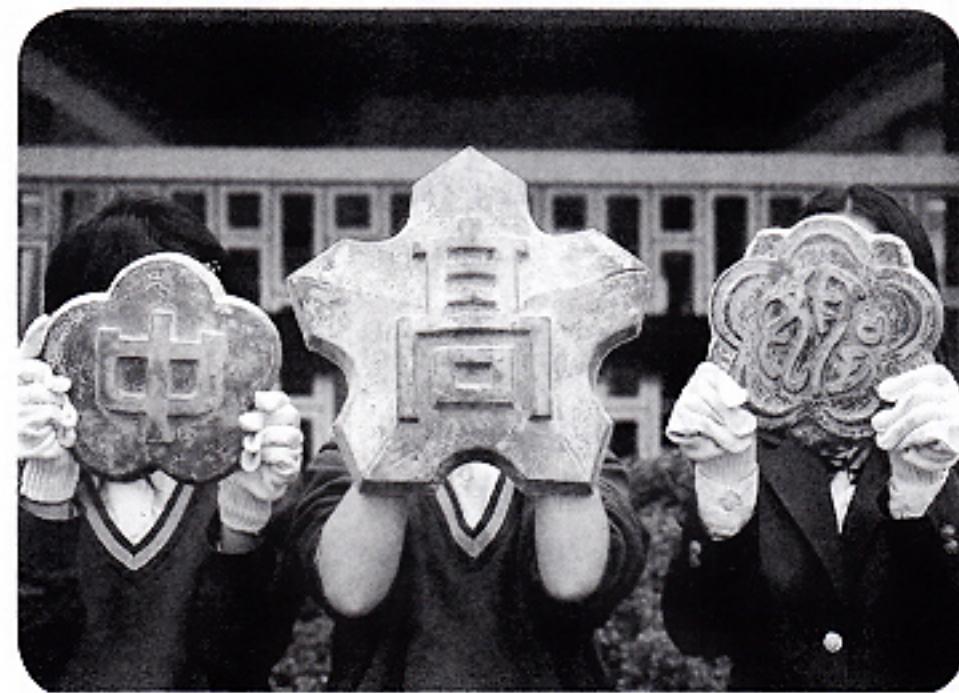
発行 石川県立大聖寺高等学校同窓会 <TEL 0761-73-2771> <FAX 0761-75-7117>
<E-mail seikobog@dsjhs.jp>

工事に伴いはずされた校章

出来上がった2階と基礎部分(5月)



平屋部分の解体工事始まる(1月)



基礎工事始まる(4月)



図書館工事のようす

ここに決定した。

そこで新聖高図書館は、次のように工事が進められるこ

とになった。

まず、旧図書館の二階建て部分に耐震工事を施す。次に平屋部分を解体し、そこに新しく二階建ての建物を建てる。そして、それら新旧ふたつの二階建ての建物を合体させてひとつの大図書館にするのである。一階は司書室と閲覧室のほか、書庫とトイレが増設される。広くなつた二階は、一学年二百四十人の生徒を収容できる多目的ホールとなる。さらに、その二階部分には渡り廊下が設置され、生徒は校舎から直接、図書館に来ることができる。五十年前に熱い思いで建設された図書館。五十年後の現在、創立百年という長い聖高の歴史の上に建設される図書館。これらが一つになる。

古来、日本建築では、リサイクルを宗としてきた。これは建築費を節約するためではなく、古い建物の靈力を受け継ぐという意味合いがある。この「聖高図書館」もその一つなのかもしれない。

(聖高図書館報より一部変更し転載)

ー創立百周年記念事業ー

本年八月「聖高図書館」リニューアル・オープン

現在、創立百周年に向けて「新聖高図書館」の建設工事が進められており、それにともなって「旧聖高図書館」が一部を残し取り壊された。

この旧聖高図書館が竣工したのは、昭和三十四年(一九五九年)一月。完成間近に発行された「図書だより」を読むと、図書館建設に当たり、同窓会やPTAの有志が丸となつて取り組む様子がうかがえる。また、生徒や先生方の図書館完成を待ち望む熱い思いも伝わってくる。当時、このような巨大な独立図書館を持つ高校はなく、県内外から見学者が訪れるなど、聖高あげての一大イベントだったようだ。以来、五十年間、旧聖高図書館は多くの生徒達を見守り、多くの生徒達に愛されてきた。その図書館が今、消えようとしている。ところが、人も建物もその運命はわからないものである。当初、旧聖高図書館は全て解体する予定であったのだが、調査の結果、二階建て部分は耐震工事を施せば十分な耐久性を維持できることがわかり、この部分を残すことになった。

学校の動向

第62回 卒業証書授与式

平成二十二年三月四日(木)午前十時より、寒さの残る中、同窓会から下口同窓会長、同窓会顧問の萬谷守男氏と竹田永一氏が参列し、大聖寺高校第六十二回卒業証書授与式が開催されました。旭校長より「人と人のつながり」の大切さと「自らに勝つ」ことの大切さを説く式辞がなされ、下口同窓会長からははなむけの言葉として「人生の目標を持つこと」の大切さと同窓の絆が力強い味方であることが話されました。卒業生にとって良き指針となるお話しでした。

最後に一同で校歌、螢の光を斉唱し、二百二十九名が大聖寺高校での貴重な思い出を胸に大聖寺高校を巣立っていきました。



祝辞を述べられる下口会長



卒業証書授与



送辞をする諸寄君



入学を許可する西出校長



来賓の方々



宣誓をする西出さん

平成二十二年四月八日(木)午後二時より、同窓会からは来賓として竹野同窓会副会長、萬谷顧問、竹田顧問が参列し、入学式が挙行されました。西出校長は「規律ある行動をすること」「学習に積極的であれ」「可能性に挑戦せよ」という三つの要望が式辞の中で述べられました。また、久田PTA会長からは「失敗を恐れるな」という激励の言葉を頂きました。生徒会長の諸寄楨和君は温かい歓迎の言葉を述べ、新入生代表の西出実央さんは立派に宣誓をしました。

式の中では吹奏楽部による校歌披露の合唱があり、厳粛な中にも心和む一時を過ごすことができました。この入学式で二百三十七名の新入生の入学が許可され、心新たに高校生活を始めるようになりました。

平成二十一年度 入学式

同窓会の動向

第十六回近畿聖高会報告

去る平成二十一年九月六日(日)にJR尼崎駅前のホテルポップインアミングにて近畿聖高会総会・懇親会が開催されました。母校からは下口同窓会長、旭校長、鴻埜(事務局)が出席しました。下口会長は挨拶の中で百周年記念事業について触れられ、校長は学校の現状と生徒の育成方針について話されました。

卓話では、加賀市地域振興部歴史文化課長の田嶋正和氏より「誇れるふるさと加賀市」と題して話をされました。加賀市にまつわる古代からの遺跡や歴史について幅広く触れられ、興味の尽きない内容でした。題名にふさわしい内容でしたので、後期定例理事会でもお話ししてくださいことになりました。

懇親会では、校歌齊唱にはじまり、思い出話やカラオケで楽しい一時を過ごすことができました。



あいさつをされる中西会長



卓話をされる田嶋氏



三年の部第一位の快挙を成し遂げました。

去る平成二十一年十一月一日(日)に鴻志館にて標記の大会が行われました。北澤陸夫加賀市教育長、下荒隆久加賀ライオンズクラブ会長の臨席を頂きました。結果は以下の通りです。

一年の部
第一位 中出 彩香(東和)
第二位 大野木結菜(錦城)

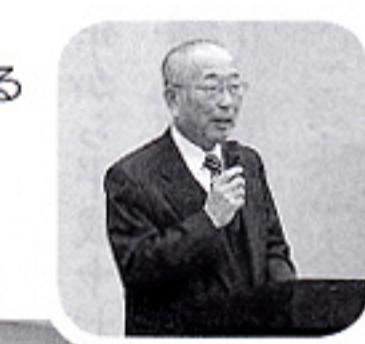
二年の部
第一位 坂口 舞依(東和)
第二位 橋本 千恵(橋立)
第三位 山村 紗世(東和)

二月七日(日)午後二時より鴻志館二階にて標記の理事会が開催されました。百年周年記念事業に関して、各委員会の報告を受け予算案が承認されました。また、募金状況について報告がなされ、今後の取り組みの強化が確認されました。(募金状況の最新情報は大聖寺高校ホームページで確認できます。)

募金目標額の達成を目指して平成二十一年二月二十四日(水)に山代温泉ホテル瑠璃光にて、募金活動の強化を目指し拡大財務委員会が開催されました。

拡大財務委員は同窓会役員、中学校下ごとに選任された募金世話人、学校職員の財務委員で構成され現在百十八名で構成されます。今後加賀市内の校下ごとに募金活動を開始する予定です。募金目標額の達成を目指して、活発な活動が期待されます。

直接ご自宅へ伺つたり、電話をお掛けすることができます。是非温かいご芳志を賜りたいと思います。



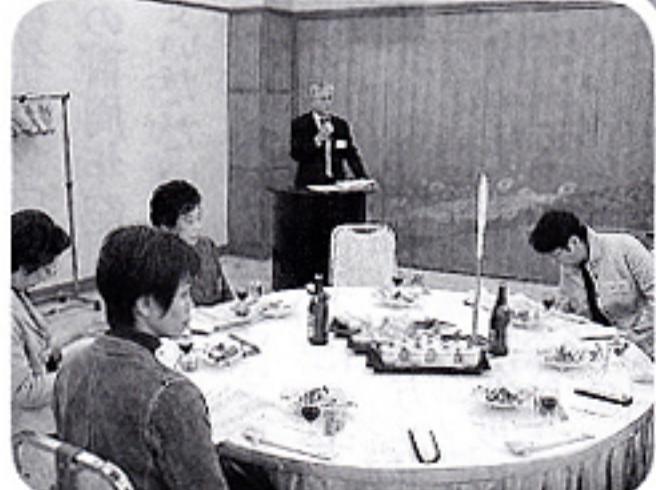
あいさつをされる竹野実行委員長

懇親会での校歌齊唱



能美小松聖高会が発足

二月二十七日(土)に小松市小島町のグリーンホテルで「能美小松聖高会」の設立総会と懇親会が開かれ、約九十名の会員が親睦を深めることを誓いました。代表世話人には同窓会副会長の武田純氏が就き、「年一回集まって、気兼ねなく声を掛け合つていこう」と挨拶されました。下口同窓会長、旭校長が祝辞を述べられました。



司会をされる北田財務委員長

第61回南加賀地区中学校英語弁論大会

平成二十一年度後期定期理事会開催

拡大財務委員会開かれる



拡大財務委員会のようす

募金目標額の達成を目指して平成二十一年二月二十四日(水)に山代温泉ホテル瑠璃光にて、募金活動の強化を目指し拡大財務委員会が開催されました。

拡大財務委員は同窓会役員、中学校下ごとに選任された募金世話人、学校職員の財務委員で構成され現在百十八名で構成されます。今後加賀市内の校下ごとに募金活動を開始する予定です。募金目標額の達成を目指して、活発な活動が期待されます。

直接ご自宅へ伺つたり、電話をお掛けすることができます。是非温かいご芳志を賜りたいと思います。



転任の挨拶

旭 直樹

「人生は予期せぬことの連続である。事に及んで、どう対処するか。怯んではならない。果敢にチャレンジしてこそ、活路は見いだせる。」と、生徒諸君に檄を飛ばしてきた。

今、自分がその予期せぬ事に直面し、苦悩の結果出した結論が、「チャレンジしてこそ、聖高百周年を推進する力になる。」という確信でした。

昨年、十二年ぶりに大聖寺高校に着

任したとき、再び母校で勤務できる喜びと感謝の念で一杯がありました。また、創立百周年記念事業を如何に成功させらるか、伝統的校風である自主自律の精神を勉学や部活動にいかに蘇らせるか、など、希望と意欲と使命感に満ちておりました。短期、中期、長期目標をたて、一年目は生徒・教職員をはじめ、保護者、同窓会、近隣中学校等に、聖高の現状・課題・方針を説明し、納得して頂き、協力を求める。二年目は、百年記念事業を通して活力を内外にアピールしていく。三年目には、新しい百年を目指して、リニューアルした図書館を起点に、学際的・知的好奇心に満ちた、落ち着いた学風にしていく。具体的には、地元国公立大学進学をめざし、地元に愛着と誇りを持った、地域に貢献していく人材を育成する。そんなビジョンを描

いていました。

何はともあれ、百周年記念事業を成功させねばなりません。下口同窓会長をはじめ、松浦前校長から受け継いだ

諸計画を着実に実行していくためにも、

是非とも必要あります。各界各層の同窓生や各支部、久田PTA会長は

じめ役員の方々に趣旨説明させて頂きご協力を願いました。同窓会役員・PTA役員の方々から、愛情あふれる励ましの言葉やご支援を頂き、感謝の気持ちで一杯になりました。

そんなとき、予期せぬ転任の話が舞い込み、冒頭の結論に至りました。ご協力頂いた皆様方には大変ご心配をおかけし、ご迷惑をかけたことを、この場を借りてお詫び申し上げます。

しかし、一緒に諸事業を進めてきた、同窓生でもある西出校長に引き継ぐこ

とができたことは、大変うれしいことであります。後顧に憂いはありません。

私は本校の昭和四十七年三月卒業（高

校第二十四回）で、教諭として平成六

年から平成十七年、教頭としては平成

十九年から平成二十一年までお世話にな

ります。母校での勤務は十五年目になります。

「愛する大聖寺高校」の校長に就任で

きたことを、大きな喜びと感じるとき

時に同窓生の皆様からの期待と声援に、その重責を痛感いたしております。

本校は、皆さんもご存じの通り、今

年、創立百周年を迎えます。二万四千

名を超える同窓生が、国の内外、また

各界で活躍されております。その同窓生

が一丸となつて創立百周年記念に向

いていました。

各支部長、役員の方々に感謝とお礼を申し上げて、挨拶と致します。本当に、ありがとうございました。



新任の挨拶

西出 隆則

同窓生の皆様には、母校の教育振興と在校生の激励のために、平素から特段のご後援を賜りまして、厚くお礼申しあげます。

前任の旭校長の後任として、四月一日付をもって、本校教頭から校長に就任しました。前校長同様に、ご鞭撻下さいますようよろしくお願ひ申し上げます。

私は本校の昭和四十七年三月卒業（高

校第二十四回）で、教諭として平成六

年から平成十七年、教頭としては平成

十九年から平成二十一年までお世話にな

ります。母校での勤務は十五年目になります。

「愛する大聖寺高校」の校長に就任で

きたことを、大きな喜びと感じるとき

時に同窓生の皆様からの期待と声援に、その重責を痛感いたしております。

本校は、皆さんもご存じの通り、今

年、創立百周年を迎えます。二万四千

名を超える同窓生が、国の内外、また

各界で活躍されております。その同窓生

が一丸となつて創立百周年記念に向

いていました。

最後になりましたが、同窓生の皆様

の益々のご健勝とご活躍を心よりお祈

り申し上げて新任の挨拶といたします。

月二十四日の百周年記念式典の準備を着々と進めていただいております。

さて、本校の活性化及びさらなる発展を願って、就任早々に以下に示す今年の三つの教育重点目標を先生方に示し、生徒のやる気を喚起して、本年度のスタートを切つたところであります。

①聖高タイムの充実と土曜補習の改善を行います。（聖高タイムとは授業ではなく、担任・副担任・生徒とのコミュニケーションをとる時間を新設した。）

②全教職員が時宜に応じた進路指導ができる。

③挨拶の励行などマナー意識と規範意識の向上を図る。

以上のことをとしました。

また、本校は、「世界一エコな学校に」をスローガンに環境教育やボランティア活動に積極的に取り組んでいます。今年の三月にはSEP活動（聖高エコプロジェクト）が評価され、環境大臣表彰を受けました。このように学習活動、部活動、環境活動、生徒会活動といった「知・徳・体」のバランスのとれた全人教育を実践しています。教職員が一丸となつて教育活動を開拓していく所存でありますので、今後とも、同窓生の皆様のより変わらぬご指導とご支援をお願いいたします。

最後に、百周年記念事業の成功と、同窓会の益々の発展を祈念するとともに、下口同窓会長をはじめ、歴代会長、

同窓会の成功と、

地元国公立大学進学をめざし、地元に愛着と誇りを持った、地域に貢献していく人材を育成する。そんなビジョンを描

いていました。

最後になりましたが、同窓生の皆様

の益々のご健勝とご活躍を心よりお祈

り申し上げて新任の挨拶といたします。